

令和7年第3回塩尻市辰野町中学校組合教育委員会会議録

令和7年第3回塩尻市辰野町中学校組合教育委員会が、令和7年10月1日、12時00分、小野農民研修センターに招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 会議録の承認

3 教育長報告

4 その他

その他第1号 塩尻市辰野町中学校組合議会附議案件について

5 校長報告

6 閉 会

○ 出席委員

教育長	佐倉 俊
教育長職務代理者	両角 東平
委員	小澤 晃
委員	小幡 洋美
委員	小澤 秀樹

○ 欠席委員

○ 説明のため出席した者

両小野中学校長	富田 章
こども教育部長	百瀬 一典
こども教育部次長 (こども未来課長)	竹中 康成

○ 事務局職員出席者

学校教育課長	上條 崇
教育施設課長	五味 克敏
学校教育課課長補佐 (児童生徒支援係長)	小松 義宏
学校教育課課長補佐 (教育企画係長)	浅川 忠幸
学校教育課学校運営係長	牧野 令

○ 本日の会議に付した議事

会議日程に記載のとおり

1 開 会

佐倉教育長 皆さん、こんにちは。定刻より少し早いですが、始めさせていただきたいと思います。

このたび、塩尻市辰野町中学校組合の教育長を拝命しました佐倉俊と申します。よろしくお願いたします。教育長としての責任の重さに改めて身の引き締まる思いではございますが、これまでの経験を生かし、職責を果たせるよう日々努力してまいります。皆様の御協力をよろしくお願いたします。

それでは、以後、着座にて進行させていただきますので失礼いたします。

本日は、大変御多忙のところ、御出席いただき誠にありがとうございます。これより、令和7年第3回塩尻市辰野町中学校組合教育委員会を開会いたします。よろしくお願いたします。

2 会議録の承認

佐倉教育長 それでは2番、前回会議録の承認について事務局からお願いたします。

瀧沢学校教育課教育企画係主事 前回、第2回教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますので、よろしくお願いたします。以上です。

佐倉教育長 よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

佐倉教育長 それでは、そのようにお願いたします。

3 教育長報告

佐倉教育長 3番、教育長報告に入ります。私から2点報告をさせていただきたいと思います。特に資料はございません。口頭になります。

1点目です。先日9月27日になります。両小野中学校で第72回霧訪祭が、メインテーマ「Memories～思い出に残る霧訪祭～」のもと、開催され、百瀬組合長、教育委員、組合議員と共に参加させていただき、生徒一人一人の学びの成果や思いを込めた展示、ステージ発表を参観させていただきました。

見せていただいたステージ発表ですが、その中で意見発表がありました。1年生の牛丸さんが、「体育館へのエアコン設置検討を」との意見を、根拠を非常に明確にして述べていた姿が印象的です。委員方もお聞きになったかと思いますが、繰り返しになりますが、辰野町では設置されている学校があること、私はその後驚いたのですが、文科省の空調設備整備臨時特例交付金措置があること、これが中学生の言葉から出てくるのがびっくりしましたが、さらには熱中症対策や避難所としての必要性など、根拠を明確にして説得力のある意見を堂々と述べている姿を見て、本当に感心したところでもあります。

その後、各学年代表の意見発表が終わった後に、全校生徒に対して感想・意見が求められた際に、自主的に手を挙げ発言する生徒の姿が非常に多くて、それもまた感心をしました。さらに、その全校からの感想発表を聞いた後に、拍手で応える全校の姿が、温かさとともに聞く姿があることによって、生徒たちの表現力が高まっているのではないかな、そんなところを感じたひとときであります。

した。

その意見発表の後行われた吹奏楽部発表では、一人一人のソロパートがたくさん設けられていて、その中でも堂々と演奏する姿が多くあり、ここでも生徒の伸び伸びした表現力のよさを感じたところでもあります。

また、先生方も、「ルパン三世」の寸劇をコンサートで盛り上げて、全校生徒、会場全体が本当に楽しそうでした。生徒を支える先生方の姿に、生徒への思いとか温かさを感じたひとときでありました。

霧訪祭を見せていただいて、たくさんの地域の皆様、保護者の皆様、先生方に見守られ、温かな雰囲気の中で生徒たちの笑顔があふれて、メインテーマのおどり、思い出に残る霧訪祭になったのではないかなと、そんなことを実感したところでございます。

2点目であります。7月23日になりますが、少し両小野中学校と離れるような話題になりますが、北小野保育園に百瀬こども教育部長と塩原保育課長と共に訪問させていただいた時の話になります。その際、ちょうど小野保育園の子どもたちが交流に来ていました。これから催される学園音楽会に向けての歌の練習を一緒にやったりとか、園庭で水遊びしたり、小野保育園の子どもたちと北小野保育園の子どもたちが一緒になって元気に取り組んでいるところを見せていただきました。

このことを、私は塩尻市の保育園を訪問させていただいて、保育園同士の交流というのがなかなか他地区ではないことかなと思って見せていただきました。この姿も、両小野学園として、この交流が今後、小学校、中学校へとつながっていくのだなということを感じながら、参観をさせていただいたところであります。

その後、園長先生と懇談をさせていただきました。両小野学園のランドデザインのもと、保小中一貫教育に取り組んでいること、具体的には美化活動や、先ほども言いました学園音楽会、たのめっ子まつり、霧訪祭など、小中学生との様々な行事とか活動を通して、園児が小中学生に親しみや憧れの気持ちを持つ機会を大切にされていると、そんな話を園長先生がされていました。

そのときに頂いた資料の中に、北小野保育園だよりがありまして、少し御紹介させていただきたいのですが、6月3日発行のおたよりになります。

両小野中学校の3年生が家庭科の授業で、幼児への関心を高めるという目的で交流しに来てくれました。給食を食べている間に、中学生がサーキットを作ってくれました。子どもたちが遊び始めると、様子を見ながら遊びをどんどん変えていく姿に、さすが中学生と感心しきりでした。園児の笑顔に中学生も自然に笑顔になり、あちこちで笑い声があふれ、最後には大盛り上がりでした。多感なこの時期に、幼児と心を触れ合わせる経験はいいものですね。たくさん遊んでもらって子どもたちは大満足。最後はお互いに、「また来て」「うん、また来たい」と名残惜しくお別れをしました。

そんなおたよりが保育から出ていました。その後の6月19日のおたよりも頂いたのですが、交流した中学生からお礼のお手紙が届いたことが報告されていました。その中の言葉です。

その手紙は、決まり切ったセリフではなく、本当に子どもたちに届けたい一人一人の「ありがとう」の言葉でした。改めて心の通ったよい交流ができたことをうれしく思いました。と恐らく園長先生だと思うのですが、書かれていました。このようなおたよりを見せていただいて、両小野学園としてのこのような、先ほど言った保育園同士の交流、また、保育園と小学校、保育園と中学校との交流、さらには、小学校と中学校の交流を通して、共に遊び、学び、共に成長するということがこれからも大事にしてほしいなと感じたところでもあります。

私からの報告は以上になりますが、報告に関してもいいですし、その他、行事の話題等ありましたら、委員の皆様からお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

両角教育長職務代理者 私もほぼ毎日、中学校へ行っているわけですがけれども、文化祭の準備などを

本当に一生懸命やっていました。午前中は運動会があって、運動会は直接見ていないのですが、練習の様子を見に行きましたが、練習とはいえ、みんな必死にやるのです。中にはふざけて練習だから勝っても負けてもいいのではないかなという子もいるかなと思ったら、いないのです。チーム全体が真面目にまっすぐ取り組むという姿勢を持っている子どもたちだということはすごく思います。

それで、先ほど教育長からもありました「ルパン三世」ですが、あれは私、何回か見ているのです。毎年ほぼやっているのです。子どもたちはすごく期待しているのです。期待しているということは、ふだん結構びびりやっている先生たちが女装したりして、そのときが一番盛り上がるのです。要するに、ふだんと違うところが見せられるということで、私も昔、劇などもやりましたが、そういうことは、先生のいろいろな面を子どもたちに見せるということで、本当にいいことだなと感じました。

それから、保育園の関係ですけれど、あまり保育園は行く機会がないので見えないのですけれども、あそこに老人ホームのきりとうというのがあるのです。私、3年前に、区長会長をやっているときにそこへも行って、ぜひ子どもたちと交流してくださいと言ったのです。というのは、こういう小さい地域ですので、子どもたちがどこの孫だとか、どこの妹だ弟だという、そういうのはなかなか分からないのだけれど、そういう交流をすると、初めて分かってくるのです。

私たちが小さい頃は、ゲーム、そういうものは何にもなかったもので、帰って地域の人と遊ぶだけではないですか。そうすると、縦の関係が、そこで自然に出来てしまうというか。あのうちのお兄ちゃんがいつも仕切ってやってくれるとか、そういうことがあった。中学校も、縦の関係のグループも使ってやることもあるのですけれども、縦といってもすごく幅広い、年寄りから子どもまでという、そういう関係はやはり大事だし、そういうことが今後、ここで生きていく上には必要になってくることではないかなと思うので、そういう意味ではとてもいいことで、今やってくれているなということを感じました。以上です。

佐倉教育長 ありがとうございます。続いていかがですか。

小幡委員 私も、27日ですか、その霧訪祭を見に行かせていただいたのですけれども、ステージ発表とか意見発表するところに間に合わなかったもので、その後からだったのですけれども、とても皆、一生懸命やっているなと思いました。

その後で、展示を見せてもらおうと思って校舎の中に入っていったときに、そこにいらした教育関係を昔にされていた方が少し話してくださったのですけれども、今、部活動に入っている子が割と少ないということをお聞きしました。

今、28歳になる息子が中学校ではバレー部に入ったのですけれども、メンタル面で辞めてしまって、そのときは部活をやっていない子は本当に少なく、逆に、部活をやっていないと何も、誰も遊べないみたいな状態であったのです。

その方がおっしゃるには、みんな、自分の入りたい部活がなければ入らないし、強制するわけにももちろんいけないと思うのですけれども、それで帰ると、ゲームをやっているようなことが多いという話を聞いて、いろいろな問題点もあるのだろうけれど、確かに上の子のときも、バスケットをやりたいたいのだけれども、男子のバスケット部はなく、それで仕方なくバレー部に入ったという子が多かったのと、それでも頑張っていて、女子のバスケット部に入れてもらってやっていっていた子が1人いたのです。

選べる数がないというのは、少しつらいところだなということを改めて感じさせてもらったというのと、その時間を有効に使えるといいなというふうに、勝手に親でもないのに思った次第です。

佐倉教育長 また後でも話題になってくるかと思うのですが、これでちょうど部活動の地域展開、地

域移行ということが、後で校長先生のほうからもあるかと思うのですが、広がっていく可能性があるかなと。今、両小野中学校だけで部活動を考えると、選択の幅が狭くなってしまうのですが、広げて地域のほうへ出てというような形で、動きが出始めていますので、またそんなところは様子を見ていただければと思います。

小幡委員 ありがとうございます。

佐倉教育長 続いていかがでしょうか。

小澤晃委員 さっき言おうと思った「ルパン三世」のことで、両角職務代理から言われてしまったので、なかなか言いにくいわけですけど、連続でつながっていて、いつも同じ演技ではなく、違ったバリエーションで先生方もやっているの、確かに楽しみにしているのかなと思いました。

午前中は文化祭ということで、今年は1日で、音楽会はまた全体の音楽会のほうに移すということでしたが、午前中のスポーツ大会のほうは見られなかったわけですが、生徒数が少なくなっているということで、専科の先生がおられないという。今までやられたような先生はおられないということで、どんな具合かなと思っていたら、吹奏楽を指揮していたのは先生ですか。来ていただいている先生だけれど、1週間いないわけですよ。

富田両小野中学校長 そうです。地域の部活動指導員です。

小澤晃委員 指揮の姿を見ていると、大変に乗って、あの先生の振り方によっては、音の出方もいろいろ出たりするかなと思いました。しっかりした姿でいろいろ活動を見られたわけですが、本当はこの2倍ぐらい生徒数があるといいなと考えたわけです。そんな感想であります。以上です。

佐倉教育長 ありがとうございます。今、出していただいた、生徒数によって教員数も変わってきてしまっているところが課題にはなっているところなので、そんなところも組合費で入っていただく先生をお願いし、校長先生からもあった部活動指導員というのは、いろいろな形で工夫して、子どもたちのために考えていかなければいけないなということは感じているところです。それぞれの立場でやっていただいていることはありがたいと思って、私も参観させていただきました。

小澤秀樹委員 文化祭、私も2年生に娘がいます、毎朝、過保護にしているわけではないですが、とてつもなく山奥に住んでいるものですから、送り迎えをしながら私も通勤をしているというところで、その中で、いつも降りて手をパチンとたたくというかハイタッチをするのですが、いつも娘は犬のようにただ手を置いていくぐらいの子どもが、ちょうど文化祭の日に徐々に送っていきましたら、自分から手を挙げてくので、自分も手を挙げると、パチンとたたくような形で向かった姿を見て、思わず、文化祭ならやる気になるなというぐらいに、そういった諸活動があつてというのが本来、前にあつて、学業が本来は前になるかもしれませんが、一つの糧として学校に行くというところで、友達、先生、地域の方と交流していく中で、そういう意志を自分が持って行ってくれたというのはすごくありがたいと感じました。

それと同時に、ちょうど文化祭の午前中にやったスポーツのところで、娘がイノシシのように走ってくるので、何したのかと思ったら、「お父さん」という肩書で借り物競争があつたそうで、自分のところに来てくれたのと、ちょうど綱引きの人数が足りなくて、ほかのお父さんと一緒にやらせていただいたというところで、中学校に上がると、子どもも成長の過程の中では、親から少し離れていくので、小学校までは一緒に親とやったりもしたのですが、中学校に行くと、親としてやる場面がないので、恥ずかしながら、うれしい一場面の時間を頂いたなと真摯に思うところでした。自分も、負けて悔しいというより、子どもとそういう時間を、たった数分だったかもしれないですが、できたことが少しありがたかったなと思うので、ぜひとも今後も続けていただいて、先ほど言った「ルパン三世」も、できれば継続でやっていただきたいなと思います。

それとともに、今アントレプレナーでちょうど学習をさせていただいている中で、企業のほうへ、また、お店のほうへ入らせてもらってやらせてもらっているのですが、その中で地域のマップを作ると。私たちにしてみれば、小野は何があるのかと問いかけられたときに、あれもこれもそれもと言うのですが、子どもたちの頭の中には浮かばない。それだけ地域を歩かないということです。先ほど小幡委員がおっしゃっていたように、おうちに入ったら、おうちの中での行動になってしまっているの、外に出す方法が今はあまりなくなってきているのかなというところで、地域貢献への活動としてのアントレプレナーがあってくれていることがすごくありがたくて。私の娘は、先ほど言ったように山奥なので、北小野に来ることはほぼない。ですが、小野の地域の中を歩くので、あそこに何があった、こういうことがあったということを認識してもらえるだけでも一ついいのかなと思ったので、今後ともアントレプレナーの学習というところを子どもたちがどんどん深めていただけたらと思います。以上です。

佐倉教育長 自分たちもそうですが、午前中のほうを見られていなかったの、スポーツ大会のいい場面を教えていただいたのと、アントレプレナーの重要性を教えていただいて、本当にありがたいなと思いました。

そのほか、委員の皆様からよろしいでしょうか。行事等のところとか含めて、よろしいですか。ありがとうございました。

それでは、次に進めさせていただきたいと思います。

4 その他

佐倉教育長 4番、その他に入ります。

○その他第1号 塩尻市辰野町中学校組合議会附議案件について

佐倉教育長 その他第1号、塩尻市辰野町中学校組合議会附議案件についてに進みます。

○議案第1号 令和6年度塩尻市辰野町中学校組合一般会計歳入歳出決算認定について

佐倉教育長 初めに、決算案件の議案第1号、令和6年度塩尻市辰野町中学校組合一般会計歳入歳出決算認定について、事務局から説明をお願いいたします。

上條学校教育課長 それでは、本日举行されます議案第1号、令和6年度塩尻市辰野町中学校組合一般会計歳入歳出決算認定について、説明をさせていただきます。まず、議案の2ページ目をお願いいたします。

まず、歳入決算額につきましては、前年度対比12.1%増の1億2,856万6,265円、歳出決算額は、前年度対比16.3%増の1億518万9,410円で、歳入歳出差引額は2,337万6,855円となっております。

続きまして、決算説明資料の2ページを御覧ください。年度別の歳入歳出の状況につきまして、上段の表、歳入の概要につきましては、歳入に占める割合が最も大きいものは、一番上の分担金及び負担金で、構成市町である塩尻市及び辰野町からの負担金であり、前年度対比15.7%増の9,810万6,000円でございます。

2つ下の国庫支出金につきましては、特別支援教育就学奨励費補助金、理科教育設備整備事業補助金、GIGAスクール運営支援センター補助金及びネットワークアセスメント補助金で、前年度対比63.8%増の46万2,000円となっております。

次に、下段の表の歳出の概要につきましては、歳出に占める割合が最も大きいものは中段にあります教育費で、学校運営に係る全ての経費であり、前年度対比0.3%増の7,559万9,995円ござい

います。

その上の総務費につきましては、組合採用職員の退職に伴う退職手当が主な支出であり、前年度対比8,298%増の1,618万4,596円となっております。

次に、決算の詳細につきまして、一般会計歳入歳出決算書、厚い冊子になりますが、こちらについて説明させていただきます。科目の順に沿って、主なものについて説明させていただきます。

まず、歳入になりますが、決算書の6ページ、7ページを御覧ください。1款分担金及び負担金につきましては、7ページ右側備考欄の記載の塩尻市、辰野町それぞれの負担金でございます。内訳は、塩尻市が6,102万3,000円、辰野町が3,708万3,000円でございます。塩尻市分には、管理市に交付されております交付税相当分が加算されております。小中一貫分は2分の1ずつ、生徒割は在籍する人数による按分となっております。

続きまして、3款国庫支出金につきましては、毎年交付されます特別支援教育就学奨励費及び理科教育設備整備事業の国庫補助金と、GIGAスクール運営支援センター補助金及びネットワークアセスメント補助金につきましては、GIGAスクール構想の推進のため、ヘルプデスクや端末設定業務などを行うGIGAスクール運営支援センターの設置及び校内通信ネットワーク環境が、文部科学省が推奨する通信帯域を満たしているか調査した事業に係る国庫補助金でございます。

続きまして、4款県支出金につきましては、部活動指導員任用事業補助金で、部活動顧問の教員に代わり、練習の指導や大会への引率など、生徒たちを指導する部活動指導員1人分の報酬に係る補助金でございます。

次の8ページ、9ページを御覧ください。7款諸収入につきましては、雑入のうち一番大きいものは、平成25年度から公会計化しております給食費533万円余で、現年度分の収納率は98.44%となっております。

続きまして、歳出の説明をさせていただきます。下のページになります。決算書の10ページ、11ページを御覧ください。

1款議会費は、議員報酬等に支出したものでございます。

2款総務費は、組合の運営に係る基本的経費で、主に正副組合長、公平委員、監査委員の報酬等の経費を支出したものでございます。上から3つ目の白丸、職員給与費は、先ほど話をさせていただきました組合採用職員の退職手当に支出したものでございます。

続きまして12、13ページを御覧ください。3款教育費1項教育総務費につきましては、主に教育委員の報酬など、教育委員会に関わる費用や事務局の運営、学校の維持に係る費用を支出したものでございます。

一番下の2項中学校費1目学校管理費につきましては、両小野中学校の管理、運営に係る経費で、最初の白丸、中学校管理諸経費は、学力講師、支援介助員、学校司書の会計年度任用職員報酬のほか、次の15ページを御覧ください。記載のとおり、学校管理に使用する消耗品費、燃料費、電力使用料、上下水道使用料などの光熱水費、施設整備点検などの各種検査の委託料、また、外国語指導助手配置事業委託料につきましては、民間の委託事業者からの外国語指導助手の派遣に係る経費を支出したものでございます。

続きまして16、17ページを御覧ください。上から2つ目の白丸、特色ある教育活動事業につきましては、決算説明資料の4ページも併せて御覧ください。学校が主体性を持って生徒の知力、体力、想像力及び道徳心などの向上を図るため、創意工夫して実施する事業に対して交付金を交付しました。令和6年度のアントレプレナー学習では、「地域文化・PRグループ」、「地域の自然グループ」、「地域振興グループ」に分かれて、地域参画、地域貢献活動などを行いました。また、総合的学習では、ブラインドサッカー体験や犯罪被害者の会の方の講演会などを開催し、コミュニケーション

力や命の大切さ、周囲への思いやる気持ちの醸成につなげております。

続きまして、決算書になります。2目教育振興費の最初の白丸、教育振興諸経費につきましては、学校で使用する消耗品、図書購入等に支出したものでございます。

その下の白丸、教育振興扶助費につきましては、学校教育法に基づき、経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して、学用品、給食費、校外活動費等を支出したものでございます。なお、財源につきましては、特別支援教育就学奨励費補助金、補助率2分の1を充当しております。

その下の白丸、ICT活用教育推進事業につきましては、市内のGIGAスクールネットワークを統括するサーバーの管理運営を行うほか、GIGAスクール運営支援センターがアカウント管理やヘルプデスク対応などの後方支援を行うことにより、学校における教育DXを推進いたしました。

その下の白丸、小中一貫教育推進費につきましては、先ほど見ていただきました決算説明資料も併せて御覧ください。4ページになります。平成27年4月から開始しましたコミュニティ・スクールの取組に関する経費を支出したものであり、会計年度任用職員として学校支援コーディネーター1人を配置し、学校・地域・行政等の連携を図り、中学校の特色ある教育活動を推進いたしました。令和6年度は、コミュニティ・スクール実践集として冊子を作成したほか、公民館事業との連携によるイベントでは、代表として両小野中学校の活動を市民の皆様へ報告するとともに他校の取組を知る貴重な機会となっております。

続きまして、決算書18、19ページを御覧ください。3目給食施設費は、直営による自校方式の給食提供による経費であり、19ページの最初の白丸、給食運営事業諸経費につきましては、主に会計年度任用職員の給食調理員報酬のほか、調理に係る燃料費、各種委託料、食材費である給食費などを支出したものでございます。なお、令和6年度は、保護者負担の給食費につきましては、物価高騰分1食当たり30円を公費負担とすることにより、中学校は1食当たり350円に据え置き、保護者の負担軽減を図っております。

その下の4款公債費につきましては、決算説明資料5ページ、一番後ろのページになります。併せて御覧ください。これまでの行ってまいりました大規模工事等で借り入れた組合債の償還元金と利子を支出したものでございます。説明は以上となります。

佐倉教育長 それでは、この議案に対して質疑等ございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」の声あり〕

佐倉教育長 ないようですので、これらの議案につきましては、本日予定されております議会へ上程されるということで御了承いただきたいと思います。

5 校長報告

佐倉教育長 では続いて、次に移ります。5番、校長報告に入ります。富田校長、お願いいたします。

富田両小野中学校長 よろしくお願ひします。資料に沿って説明させていただきます。まず、先ほどから話題になっていますが、9月27日土曜日に第72回霧訪祭を行いました。「Memories～思い出に残る霧訪祭～」として、3年生を中心として資料のような内容で開催いたしました。生徒は体育祭ではリレー、綱引きなど全力で取り組みました。一人一人がとても楽しそうに競技に打ち込んでいる姿が見受けられました。午後はステージ発表で、意見文発表、吹奏楽の演奏を聞き、生徒会企画を楽しみ、終了となりました。3年生が17名と少ない中、一人一人が自分の役割を果たしていたと思っています。

続いて、10月24日の金曜日に行う学園音楽祭について記載させていただきました。保育園、小学校、中学校が一堂に会しての音楽会です。学校の枠を取り払い、皆で音楽を楽しむ予定となっております。

おります。ただ、両小野中学校は今年、音楽の職員が市からの派遣の職員になっていて、週に2日しか来ないという状況になっていますので、なかなか練習がうまくいかない部分もあったのですが、地域の方や先ほどの外部指導者の先生が吹奏楽を見てくれたりしながら、何とか音楽会に臨める態勢ができたかなというふうに思っています。

次は、両小野小学校6年生が中学校登校の計画を記載してあります。今年の2週間、6年生が両小野中に来て生活を共にする予定になっています。もともと小学校から級友は変わりませんが、環境が大きく変わるというのが中学校ですので、少しでも中学校への進学ハードルが緩和されるとありがたいなと思っています。

続いて、部活動についてお話しさせていただきます。部活動の中の資料の5のところ、中体連の夏季大会の結果を載せさせていただきました。野球部が合同部活ながら県大会に進んで、大会では佐久長聖中に勝つことができました。生徒たちはとても喜んで帰ってきました。新人戦のときには佐久長聖に負けてしまったということもあったので、それを払拭するよい結果だったなと思っています。

次に、部活動の現状をお話しします。両小野中学校では、現在校長、教頭を除くと県費職員が7名の状態です。そこに6つの部活動が設置されていますので、バランスがあまりよくないという状態が続いています。地域展開も迫っていますが、保護者と相談しながら、部活動運営の縮小を考えなければならないなという状況になっています。ただ、今現在、それぞれの部活動に子どもたちの在籍がありますので、その子どもたちの活動は保障していきたいと思っていますが、まず来年度は、美術部の募集を停止するという予定になっています。また、野球部は2年生以下の部員が現在なくて休部状態になっております。来年度1年生が入部しないということになると、廃部を考えていかなければならないかなという状態にはなります。野球をやっている子がいないわけではなくて、野球をやっている子たちが地域のスポーツクラブのほうに入っているので、部活動に入っていないという現状になっています。野球部、バスケ部、剣道部は全国大会に出場した経歴を持っていて、地域の方々も非常に期待して見守ってくれています。職員の負担との兼ね合いですが、縮小の方向は仕方ないかなというふうには考えております。

次に、令和7年度日本土真ん中ウォークへの全校参加について記載しました。皆様も御存じのとおり、例年11月にチロルの森周辺の道路で日本土真ん中ウォークを開催しています。そこに今年は全校で参加しようと考えました。ねらいにあるように、地域の思いや地域の一員であるということ、この大会を通して、じかに感じてもらいたいという願いから考え計画しました。市の体育協会の方々と打合せを繰り返しながら、協力校として参加させていただきます。3年生が校内ウォークラリー実行委員会を運営し、ウォークラリーの計画、現地視察説明の実施、受付ボランティアや物品販売などを考えてくれています。昨年は台風で大変な回になってしまいましたが、今年は多くの参加者に混じって子どもたちが頑張ってくれることを期待しています。

次に、資料はありませんが、アントレプレナー学習の発表会を11月22日に計画しています。今、職員会で発表の仕方を練っていますが、この発表会の中では、辰野町で開催されるほたる議案に提案される内容もここで発表したいなというふうに考えております。

資料後半は、学校だより「おきな草」を掲載させていただきました。おたよりの中の生徒の活躍や笑顔を御覧いただければ幸いです。以上、両小野中学校からです。ありがとうございました。

佐倉教育長 ありがとうございました。御質問などありましたらお願いいたします。

小澤児委員 2点お願いしたいと思います。タブレットのソフトの関係で、いろいろ行政の違いもあり、Googleを小学校で使っていて、それで中学校はロイノートを使っている。それを小学校でやってきておいて、またスムーズにつながっているかどうかという、使い方みたいな。

富田両小野中学校長 いろいろなソフトの違いとかあるのですけれども、子どもたちは、入力の方法はそんなに変わらないので、1年生もスムーズに使っていますし、いろいろな授業の中でタブレットを使いながら、どんどん感想記入とか、授業のまとめとかやっている姿を見ると、特に問題はな
いかなと思っています。

佐倉教育長 よろしいですか。

小澤晃委員 ありがとうございました。

佐倉教育長 もう1点は、

小澤晃委員 いいです。

小澤秀樹委員 逆にそこで先生たちは、そういったことで困ることはないですか。データの移行とか、
小中学校での対応は差がないですか。

富田両小野中学校長 基本的にクラウドを使用しているので、子どもたちはその中でいろいろな情報
のやり取りをしているということで。

小澤秀樹委員 先生たちでは、そういった教材の中でのやり取りとか、データのやり取りというのは
どうなのですか。

富田両小野中学校長 先生たちもそういうやり方に慣れてるので、基本的にクラウドに上げている
ので、データの持ち出し等はなくやっていますので。

小澤秀樹委員 分かりました。

佐倉教育長 よろしいですか。

両角教育長職務代理者 中学校の部活動の関係ですが、行政の人がたくさんいるので知っておいても
らいたいことがあるのですが、今日から10月で、塩尻は西と東と分かれて1チームずつ、あるいは
人数が多ければ2チームにしたりするのですけれども、それで、今日からもう放課後の部活動を
移動してできれば、例えば塩中へ行って練習をする。それから丘へ行って練習するということがで
きるようになってきました。なってきましたと言っているということは、なってきただけで、
行けないのです。なぜかという、移動手段が、今、非常に保護者が困っているということです。

私、前々からお願いしているのですけれども、例えば「のる一と」が塩尻のほうではあるし、向
こうのほうは何というのかな、今、駅までと、それからセンターまで来ているではないですか。「お
のり一な」か。ああいうのがうまく使えれば、そのまま何人か乗って行けるのだけれども、塩尻の
場合では「のる一と」は全然考えていないということで、行政にしっかり言われました。理由を聞
いたら、予算の関係と、それから運転手がもう全然間に合わないということを知りました。

それで、「のる一と」ほど人数がなくても、例えばキャラバンだったら運転手を含めて10人乗
れる。キャラバンあるいは普通のワゴンで十分移動ができるわけです。ここが檜川はそうですね、
人数が少ないから両小野中学校は、結局は塩尻へ来て部活をやっている子、一人もいないでいいの
かな、校長先生、そうですね。

富田両小野中学校長 平日は、ほとんどいないですね。

両角教育長職務代理者 いない。結局移動ができないからという一番のネックがそこになっていると
いうことだから、それをもっと「のる一と」ではなくて、小さい車で、あるいは普通車の免許で、
二種免許は多分いらんと思いますので、そうすると普通車で移動できるというふうな形を考えて
いけばとか、移動の手段になるのかなというようなこと、私なりに素人ですけれども、そんなこと
を思います。移動の手段です。

それともう1つは、今非常に悩んでいることの1つに、地域展開しているときに、ここはもちろ
ん部活動でやっている。それから塩尻市にも社会体育のチームはあるのですけれども、子どもたち
の中には2種類いると考えてください。要するに、うまくなりたい、大会に出て勝ちたい、大会で

勝って上の大会へ、中信大会でいい成績を取る、あるいは中信大会でいい成績だったら県大会へ行きたい、こういう子どもたちもいます。それともう1つは、例えば私のところで言うとバスケットなのですけれども、バスケットの楽しみを知って、バスケットの、要するにゲーム的なことをやって楽しみたい。

これは、別にバスケットばかりではなくて、いろいろな種目に必ずあるはずです。大会で強くなりたい、本当に強くなって上の大会へというふうに考えている子ども、あるいはそうではなくて、バドミントンならバドミントンをやって楽しみたいという、そういう2種類の子どものいると考えてもらえばいいと思います。

そうしたときに、地域展開を今考えているのは、ほとんど大会へということなのです。だから、そこで行ってやる練習、うちも男子の10人が、最初、丘と塩中と3校で練習するということへ行きました。行きましたが、私も今の言ったところがネックになっているだろうなと思っていて、結局、今の段階で、その10人のうちに、はっきりしているのは2人です。あと、また2人くらい多分出てくるとは思いますけれども、あんな大会のための練習、いわゆるそういう子どもたちにしてみたら面白くないのです。厳しい練習だし、ミスは許されないし、きちんとやらないと怒られる。そして練習試合にも使ってもらえないと、こういうふうになるので面白くない。

そうすると、先ほどの大会へ出たい、強くなりたいという、そういう子どもはいいのです。そういうところへ乗っていけるからいいのだけれども、ところが、楽しみたいという子どもたちは、そこへ乗っていけないのです。現在で、今2人と言いましたけれども、2人はもう丘へは練習は行きません。そして、両小野中で私が見ているのですけれども、そこだったら行きます。そういうことが現象として起きているわけです。

まだ出てこないと思うので、それは子どもたちの考えで仕方がないです。でも、そこを両方うまくしてあげないと、せっかく自分の好きな競技を一生通して楽しんでやっていきたいというような子ども、実際にはそこを狙っているはずなのに、大会で勝ちたいという子どもたちは、だんだんだんだん人数が少なくなりますから、そうすると楽しみたいという子どもたちの策をどういうふうを考えていくのかというところを、行政の人も、そこをぜひきちんと考えていただきたい。それをお願いしたいと思います。以上です。

小松学校教育課課長補佐（児童生徒支援係長） まず、移動手段のことなのですけれども、昨日、丘中学校で部活動委員会がありまして、延長部活が始まりますと。下校が6時半になるので迎えは保護者の責任でお願いしますと。部活なのですけれど、お迎えは保護者なのです。こういう学校がほとんどなので、両小野中学校だけでなく、ほかの学校も全て、そういう対応手段を行政のほうで見るとするのは現実的に不可能な部分がありますので、もう根本的に移動手段自体が少ないというのがまずありますし、お金を出すとしても、全員にお金を出さなければいけないとなると幾ら出さなければいけないのかということも、途方もない額になってきたりするので、これはかなり課題として捉えていまして、本来であれば、子どもたちが自分たちで移動できるような場所に、そういう場があるのが一番いいのですけれども、それがかなわないときにどうするかというところは、検討課題として引き続き研究していきたいと思っています。

もう1点、子どもの質なのですけれども、私は丘中のバドミントン部の外部指導者なのですけれども、50人いるのです。当然勝ちたい人もいれば楽しみたい人もいて、部活のよさであり悪さがそこだと思っていて、部活の中にそういう2種類の子どもの混ざっている。今後はそれぞれ勝ちたいチームとか楽しみたいチームというのがあれば、それぞれ自分の選択で行けるようになるのですが、なかなかそれが全部そろわないときには困ってしまうということがあって、ここはぜひ、その地域のバスケットボール関係者なり、それぞれの関係者がそういう楽しみたいチームをつくってもら

とか、勝ちたいチームをつくってもらおうというようなことを我々のほうでしっかりと支援していくということに尽きるかなと思っています。

ですので、バスケットボールの地域移行、今、合同部活動でやっていただいていると思うのですが、まずはそのチームが勝ちたいチームなのか楽しみたいチームなのかという色を明確に出していただいた上で、足りないほうのチームを民間の方々と一緒につくっていく、そのような動きをしていきたいかなというふうに今のところは思っています。いい答えができないのですけれど、悩ましいところでして、しっかりと研究していきたいと思しますので、お願いします。

佐倉教育長 また今後、交互に研究していくということをお願いしたいと思います。そのほか委員の皆様から。

小澤晃委員 小野に対してではないですけども、アントレプレナーを今までは縦割りでやっていたのですよね。今年は各学年のまとめでやっているというような形で、例年のように体育館でパネルのようなものを作ってやることはやる、そのような計画、まだ決まってないという話ですけど。私も霧訪山のところは、いろいろついていって、100メートルごとの標識を見たり、それから小野の水をいろいろ調べたり、それから植物、歴史みたいなこととか、御柱のこととか、そういうのを調べて一緒にやらせてもらったことがあるのですけれども、いろいろまた楽しみにしておりますので、よろしくをお願いします。

佐倉教育長 ありがとうございます。そのほか、いかがですか。

小澤秀樹委員 両角職務代理のほうとのお話ともつながっていくのですが、今現在、私の娘が吹奏楽に入っているのですが、練習の内容のところに、本人たちはなれ初めというよりは上の大会に上がっていききたいという、一部ほかの意見もあるかもしれませんが、そうなっていくときに、週2回という中で、もっと言えば授業も今まならないというお話もあったので、そういったところの学業としてもしっかりつけていかなければいけない、教育という区分と同時に、部活という両側面を持った専科というところが、一人でも欠けるとこういう事態に陥るというのを自分でも目の当たりにした状況です。

何かできる方法があればという私の勝手な、言えばいいという問題ではないのですが、こういったところは少し重点的な考え方も持っていたいただいて、親も親で柔軟性を持った考え方を持たなくてはいけないと思うのですが、見る目線は子ども側のほうに行ってしまうので、できない、やれないとなると、ではどうすればいいのという考え方は親はもう持てない。

そこに壁があるわけではなくて、何かしたくても行く場所もないので、ではこれから行く先、地域移行になるからといっても、本人たちはその意志はないので、その子どもたちにどう理解してもらおうかというところをしっかりと子どもとお話をしていただけたらなというのと同時に、保護者会も吹奏楽のほうにもあるので、親もどういうふうにしていかなければいけないかという考え方を両側面で、親も子も、親も学校側も、また親子同士もそういうお話を、これからどうしていかなければいけないかというところを考えなくてはいけないのですが、はっきり言うと、何をしたらいいのか、今は全く分らないです。

スポーツ側からもそういう形もあるし、文化的な部分での吹奏楽としても、どうやって子どもたちにそういう部活を引き続きやらせられるかでなくては、自分の次の下の娘は何も入らないで終わってしまうのではないかという。何かしら資料は渡されているのですが、これから中学校側として、どういう形で地域移行をしていきますというのは、実情的にはまだ話はもらっていないという、その認識でいいですか。ですけど、もうそういう話が始まってきているので、何か保護者の方ないし地域の方たちに、そういうお話をする場があってもいいのかなと思ったので、また検討の内容として考えていただけたらと思いますのでよろしく願いいたします。

佐倉教育長 いいですか。ありがとうございました。そのほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

1つ、今も出していたいただいとおりだと思うのですが、両小野中学校の学校規模が小さくなってきたところに応じて、校長先生からもお話がありましたが、職員数も減ってきた。さらにそこで部活動地域展開、それをどういうふうにしていくのかということと、普段の授業もというところを、また課題ということをしっかり認識して、私たちもいますし、またしっかり認識して、そこにしっかり保護者の方や子どもたちにも説明できるように、また準備をしていきたいというふうに感じました。ありがとうございました。

そのほか、ではよろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、次に進みます。

そのほかで事務局等、何かありましたらお願いいたします。

瀧沢学校教育課教育企画係主事 次回のこの委員会は、令和8年3月25日を予定しております。また2月下旬に開催通知を発送いたしますので、委員の皆様の御出席をお願いいたします。以上です。

佐倉教育長 ありがとうございました。そのほか、委員の皆さんからよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

6 閉会

佐倉教育長 以上で本日の教育委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

○ 午後12時40分に閉会する。

以上

塩尻市辰野町中学校組合教育委員会会議規則第17条第2項の規定により署名する。

教 育 長

同職務代理者

委 員

委 員

委 員

記 録 職 員
学校教育課教育企画係
